



季節の変わり目の対策をしっかりと ～通常管理に戻し、一刻も早い成績の回復を

今夏の猛暑はご存知のとおりである。8月は平年を2℃上回る統計史上最高の暑さで、東北や北陸でも鶏の熱死が多発し鶏卵相場を押し上げた。季節の変わり目は急激な気温の低下や寒暖の差、秋雨、落雷など不安定な気候が予想される。暑さが一段落したらこの夏を総括し、早めに通常管理に戻すことが重要だ。

●猛暑への備えは設備から

へい死予防で鶏に直接水をかける場合があるが、今年はいあまりの暑さに一日中水をかけ続けたとも聞く。食鳥処理用の氷を飲水に投入したプロイラーインテもあったようだ。異常気象や猛暑への一番の備えはやはり設備投資である。

クーリングパッドは効果が高く優れた設備であるほか、細霧冷房も最近では小型で簡易的、安価なものが出ている。飲水の冷却設備も実用化されたため、鶏舎のリフォームを行う際は導入を検討してほしい。

●夏が終わったらするべきこと

夏が終わっても鶏舎内の気温は高いため、外気の下がった夜に集中的な換気を行い、鶏舎内の気温を少しでも下げたい。換気により鶏舎内環境を涼しく保ち、季節変わりの疾病を予防することが重要である。

ミッドナイトフィーディング（夜間給餌）を行っていた場合は、鶏の負担軽減のため、涼しくなったらやめることが望ましい。やめる際は鶏に優しく、照明時間を4日に15分ずつなど、徐々に短縮したい。

また、多量のへい死鶏を一刻も早く回収する必要がある。処理能力の問題で十分な措置が取れない場合もあるが、疾病の発生や鶏卵の衛生などを考えれば、へい死鶏は速やかにケージから撤去したい。ケージ内羽数の不ぞろいにより飼料摂取量、卵質がばらつくことがあるため、ケージ内羽数の調整も必要だ。

さらに、鶏糞の処理も重要である。軟便で回収が困難な鶏糞を乾いて固まるまで放置すると、臭気が漂い鶏の呼吸器障害やワクモ、ハエ、鶏病の原因になる。冬になれば鶏舎は閉めきられ臭気は充満し、成績に悪影響が出る可能性がある。若い鶏の鶏舎を優先して清潔な状態に戻したい。クモの巣やほこりも同様だ。高温多湿な夏に傷んだ機械の補修修繕も重要となる。

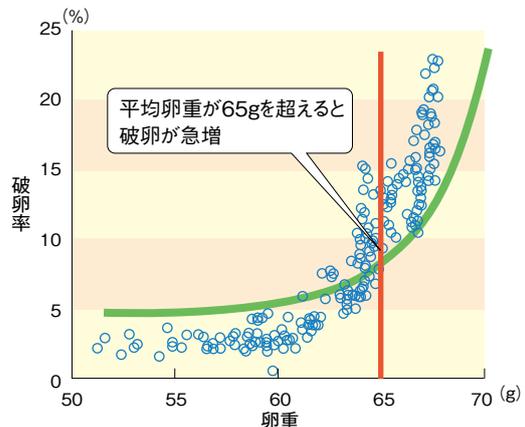
●飼養管理面の改善に細心の注意を

ワクモや*トリサシダニが大量発生していた場合、一刻も早い駆除が必要である。鶏のストレスや汚卵の原因となるダニは、成績や卵質の回復を大幅に遅らせる。

卵重制御も重要だ。夏は高CPの飼料を使い卵重を大きくするが、冬に飼料摂取量が増えると卵重が大きくなりすぎ破卵増加のおそれがある。飼料摂取量が100g/日・羽を超え順調に伸びたら、ML卵の比率を最大にするために個卵重が63～65gほどでCPを下げたい（図1）。大型鶏の場合CP15～16、小型鶏でもCP17の使用を検討すべきである（図2）。鶏の体調管理の方法として体重測定は最も有効だ。栄養が十分に体重が除々に増える状態に一刻も早く戻したい。

猛暑は育成にも大きな影響がある。中すう期に猛暑による成長阻害を受けた鶏は、成鶏期になっても成績に影響が出る場合がある。このような鶏群は特に成鶏期の管理で飼料の食い込みを促進し、初期成績の立ち上げをフォローしたい。

図1：卵重と破卵率



※破卵率：ケージ前の集卵ベルトで卵がすでに割れている率

図2：卵重制御を意識した飼料の切替コントロールの一例

大玉鶏の期別給与の一例		卵重63～64g (約40週齢)	
産卵前期飼料	CP17%—ME2,850kcal/kg	産卵後期飼料	CP15.5%—ME2,830kcal/kg
小玉鶏の期別給与の一例		卵重63～64g (約48週齢)	
産卵前期飼料	CP18%—ME2,850kcal/kg	産卵後期飼料	CP17%—ME2,830kcal/kg

※CP：粗タンパク質、ME：代謝エネルギー

*裏表紙に用語解説